

## 青森県立五所川原工業高等学校

住所 五所川原市大字湊字船越一九二

生徒数 男子八二五名 女子一七〇名

部員数 男子一五名 女子二名

顧問 今 道人・森 忠幸

我々の学校がある五所川原市とは、県の西部、津軽半島の入り口に位置し、東は中山山地、西は岩木川が流れ、穀倉地帯が広がる津軽西北地方の中心都市として発展してきた所です。

昭和三十八年四月、我が青森県立五所川原工業高校は、産業界の要請と高校進学率の上昇により、ここ五所川原市に開校し、今年度で三十周年を迎える若い学校です。開校時は機械科、電気科の二学科でスタートしましたが、電子産業の急速な進歩や、情報化社会への対応のための学科再編成などにより、現在では電子科、電子機械科及び情報技術科を加えての五科の、生徒数八百四十名の中規模の学校です。どの学科も、急激に進む技術革新の流れに積極的に対応し、最近の機器を駆使した学習を通して、「人間性豊かで創造力・実践力に富んだ工業人」の育成を旨とした教育を行っています。

学校の中庭には白樺の林や、色とりどりの花に色どられた噴水があり、我々の心をなごませてくれます。このようなめぐまれた環境のもとで、生徒たちは「無限の可能性」を求めて学習にスポーツに励んでいます。

我が校は各部の活動がたいへん活発で、バレー部は今年本県の

代表として、春の高校バレーにも出場しており、その他、県下トップレベルにある少林寺拳法部、ウェイトフティング部、弓道部をはじめとして、近年インターハイ出場選手を出しているボクシング部などがあります。我々空手部もこれらの部活に続けと日夜練習に励んでおり、今後の活躍を期待されています。空手部は以前に県大会で優勝した実績もあり、県高校空手のトップレベルに位置していましたが、近年成績は思わしくなく、OBなどの人達からの励ましもあります。ですから、我々の手で優勝旗をとりたいと思っています。

我々空手部の良い所は、皆とても明るく、仲が良いということです。団結力だけは、どの部にも負けないと思います。更に我々は気持ちの切り換えが非常にうまく、道場に笑いが響き渡っていても、練習の時間になるとその声は止み、代わりに緊張感が漂い始めるという具合です。このような良い部分は、これから先も引き継いでいってほしいものです。欠点はというと「ない」、と言いたいのですが、けっこうあり、その中でも特に気になるのが、気合いが入っていないことです。三年生から声を出していかなければ、一・二年生はついてきてくれないので、後輩の良い手本となるように、気を抜かずにしっかりやりたいと思います。

空手部の道場は非常に狭く、大会での規定の広さがないため、思い切った練習がなかなかできません。我々はこのハンディをどう切り抜けてゆくかを考えて、内容の濃い練習方法で技を身に付け、各自の力を伸ばしていこうとがんばっています。そのために我々は、自分のことをよく見つめて、それなりの練習をしています。

す。しかし、自分自身では気付かないことが多く、しばしば先生に注意されます。そんな時は、先生や仲間達のアドバイスを素直に聞き入れて、自分自身の足りない点を克服しようと努めています。もちろんそのためには厳しい練習を積んでいかなければなりません。当然格闘技ということでケガをしたり、一時的なスランプ状態に陥ったりすることもあります。残念なことはその障害を乗り越えることができず、部をやめていく人も少なくありません。現に、今の3年生が一年生のときは三十人近くいたのですが、現在では五人となり、その内二人は途中から入部してきた生徒なので、実際に残ったのは三人



となり。これらの五人もいろいろな面で大変悩み、退部したいという生徒も何人かいました。

しかし彼等は、顧問の先生や仲間達の励ましのおかげで、彼ら自身の壁を乗り越えることができたのです。こうした苦しい日々があったからこそ、今の我々がいるのだと思います。

今年は例年に比べて、入部した生徒が少なく、心持ち寂しく思うのですが、その分元気な一年生ばかりで、少々うる

さいほどです。人数が少ないということは、その分一人一人にこまごまとしたことでまで数えられるので、今後の彼らの活躍が楽しみです。

部活動というものは、先生にひっぱられてイヤイヤやるのでは、まったく意味のないものになってしまいます。我々自身が積極的に取り組むことによって、何かを手に入れることができるのです。我々は、本当に少しずつですが、目標に近づいています。人間、その気になって努力すれば、いつかは目標にたどりつけるのです。後悔はしたくないので、このことをよく頭に入れて、技を磨いていきたいと思っています。

我々は空手を通して、いろんなものを手にすることができたと思います。鍛えぬいた体や忍耐力もそうですが、一番価値あるものは友情ではないかと思っています。それはとても温かく、何よりも頼りになるものだからです。あと、我々が手に入れるべきものは、優勝旗だけです。